

すこやか保育園の保護者の皆様へ

平成26年度に当園が受審した福祉サービス第三者評価の結果についてお知らせいたします。

※以下は、福祉サービス第三者評価機関である(株)学研データサービスが作成した評価結果の概要です。なお、評価結果の詳細につきましては、「とうきょう福祉ナビゲーションのホームページ (<http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/index.html>) からご覧いただけます。

福祉サービス第三者評価結果概要

特に優れている点

多彩な活動で子どもたちの視野を広げています

0～2歳児のわらべうた指導、3～5歳児の体操、4歳児のリトミック、5歳児の英語（外部外人講師）、手話、習字、太鼓、畑指導、造形指導など盛りだくさんの活動が計画され実施されています。講師は外部や内部のスタッフが担当し、それぞれ年間計画を立て実践しています。造形活動は「面白ギャラリー（作品展）」につなげたり、体操は運動会に、畑仕事はクッキングにと、それぞれ生きた活動になっています。子どもたちはこのようなさまざまな経験をすることでたくましく育っています。

子育て支援センターを併設し、地域の子育て中の親子にさまざまな支援を行っています

子育て支援センターを併設し、地域の子育て中の親子への支援を中心にいろいろな活動を実施しています。そこは、特定保育や一時預かりは年間延べ1000人以上が利用しています。また、広場事業では、地域の育児や保育資源に関する情報提供として情報紙（COSY）の発行、育児相談、絵本の貸し出し、育児講座やベビーマッサージの講習などを行っています。さらに、交流事業として、園庭開放、すこやかドレミ（出前保育）、親子サロン、井戸端会議なども実施しています。このように、地域の親子のさまざまな支援活動を計画的に行っています。

障がいを持つ子どもに優しい環境になっていて統合保育が実践されています

当園は280名強の子どもたちが在籍する大型保育園です。そこには30名ほどのいろいろな障がいを持つ子どもたちが通っています。施設の3階は「障害者介護支援事業所」があります。障がいのある人たちを積極的に受け入れる考えは前理事長からの「愛の精神」という信念が脈々と受け継がれているからです。そして、どの子どもたちもいっしょに楽しく過ごしていますから、施設内はとても明るい雰囲気です。保護者からも「障がいを持ったお友だちともいっしょに過ごし、子どもなりに育っている環境は素晴らしいです」という声も聞かれます。

さらなる取り組みが期待される点

職員のワークライフバランスの検討を期待します

多彩な行事計画、園内研修の充実、職員の自発的な活動など子どもたちのために職員はいろいろな活動を行っています。職員のアンケートでも意欲的に取り組む環境が整っていてやりがいがあるとの声も寄せられています。ただ、職員からは、そのあまり、行事の準備や研修会の参加、各種役割の実施などで仕事が少しオーバーワークになっているのでは、とも感じているようです。今後、職員の健康管理の意味においてもワークライフバランスを考えていかれることを期待します。経営層もそのことを感じ、具体的に着手しつつあります。

大型の職員集団ですので、よりきめ細かい職員間の連携を期待します

大型園で常勤、非常勤の職員を合わせると80名を越す集団です。多岐にわたる活動をスムーズに遂行していくためには、園長から職員までの縦の関係とクラスごとの職員集団という横の関係、双方ががっちりかみあって、報告・連絡・相談が遺漏なく進んで行く必要があります。当園は組織図がしっかりし、「私たちのこころえ」という冊子を全員所持していますので、連携は取れています。ただ、もう少し密に取ったほうがよいのでは、という声も一部職員の中から聞かれます。どのように連携を充実させたらよいか、さらなる検討を望みます。

全ての職員が明るい笑顔と優しい声かけを期待します

今回の第三者評価の利用者調査には、多くの保護者からさまざまな意見が寄せられました。また、たくさんの自由記述意見や感想があり、保護者の意識の高さもうかがえました。その意見や感想の多くは、園に対する感謝の声や積極的に障がいを持つ子どもを受け入れている園の姿勢に賛意を表す声や、何よりも園の理念をもとに保育をしていることに対する感謝の声が多く見られました。ただ、ほんの一部ですが職員の言動に対する疑問の声もありました。多くの保護者の声をさらに高めるためにも、職員の対応について今一度再確認されることを期待します。